

## (1) 研究テーマ

### 豊かな表現力の育成

～伝え合う力を高める指導の研究～

## (2) 研究テーマについて

「伝え合う力」は、人間が社会的な存在として自立するために欠くことのできない力である。人間関係が希薄になっている現代社会であるからこそ、伝え合う力を育てていくことは、よりよい人間関係を築いていく上でとても大切なことである。

また学校生活での子ども達の実態を見ても、言葉によるコミュニケーション能力不足から、人間関係をうまく築けなかったり、トラブルを起こしたりする場面が多く見られる。学習面でも、話し方や聞き方をきちんと身につけることが全ての教科にかかわる学びの力となってくる。

これまでの研究では、「伝え合う力」を高める指導として、「話すこと・聞くこと」領域の中で、対話やインタビュー活動、調べたことを発表する活動などの授業実践を通して、話す力や聞く力を高めるための手だてを学ぶことができた。

また、過去7年間の研究においては、領域を限定せずに国語科全体の中で伝え合う力を高める指導法のあり方について実践にとりくみ、話し合いにおける形態の工夫や児童の実態に即した題材の設定、書いたものを活用しながらの対話の実践などを行い、伝え合う力を高めることができた。

そこで、今年度も継続してここ数年来の研究の成果と課題を踏まえ、研究実践を行うことにした。また、課題として出されている、子どもたちの考えを深め表現力をはぐくむための音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導法・教材の開発を継続し、深めていきたい。さらに、「伝え合う力」を高めていくために必要とされる「言語能力」とはどのようなものであるかを明らかにし、児童につけたい言語能力に合わせた言語活動の開発にも取り組んでいきたい。

### (3) 研究の経過と概要

日程	研究内容
5月 7日	組織作り，研究テーマの決定
5月 21日	年間計画などの決定
6月 4日	授業研究についての検討
8月 4日	学習会「単元を貫く言語活動」を設定した授業づくり ～伝え合う力を高める授業づくり～ 講師：保坂伸教頭先生（楡形中）
8月 29日	授業研究 おはなしをたのしもう 「ゆうだち」 1年生 授業者：村田 奈緒美（塩山南小）
10月 1日	実践報告 各自が研究テーマに沿った形での実践を持ち寄り検討

### (5) 今次地区教研で論じられた問題と今後の課題

○授業をきっかけとして音読に興味や関心を持って取り組める児童が増えた。その意欲をさらに高め継続させていくための工夫をしていくことが必要。

○単元を貫く言語活動を設定することで，学習の大きな目標を児童に持たせ意欲を継続させていける。どれだけ意識させることができるかが大切。活動が目的ではなくどんな力をつけたいかが重要である。

○伝え合う場面の設定に工夫があるとよい。ペアから全体へと発表の場を広げていくことなどが考えられる。

○スピーチや書く活動に取り組ませる時，テーマの設定の仕方で興味を持てたり，内容をふくらませたりすることができる。

### (6) 報告書作成参加者

雨宮 弘志	(奥野田小)		
松岡 めぐみ	(加納岩小)	岡村 太郎	(日下部小)
佐藤 清美	(日下部小)	広瀬 友理	(日下部小)
橋本 耀太	(日下部小)	武井 由美	(山梨小)
岡村 理恵	(後屋敷小)	阿部 ますみ	(山梨小)
渡邊 満智子	(塩山南小)	前田 文	(塩山南小)
後藤 美樹	(塩山南小)	村田 奈緒美	(塩山南小)
中村 悦子	(塩山南小)	荻原 幸菜	(玉宮小)
佐藤 多恵	(井尻小)		

# 第1学年 国語科学習指導案

指導者 甲州市立塩山南小学校  
村田 奈緒美

1 単元名 おはなしをたのしもう「ゆうだち」(光村図書1年上)

2 単元の目標

◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。 【読むこと(1)ウ】

○文章の内容と自分の経験を結び付け、自分の思いや考えを発表することができる。

【読むこと(1)オ】

3 単元について

本教材「ゆうだち」は、展開がはっきりとしていて、登場人物の行動を追いかけやすい物語である。動物の出てくる物語ではあるが、物語の世界にスムーズに入ることができるだろう。

ストーリーが明快で、挿絵と照らし合わせて主人公になりきって動作化を楽しむことができる教材である。

「けんか」や「仲直り」は、子どもたちにとってこれまでに何度も経験してきたことであると思う。うさぎのこやたぬきのこの「けんか」や「仲直り」を自分の経験と重ね合わせ考えられる児童もいるが、同じような「けんか」や「仲直り」の経験がない児童も多くいると考えられる。また、この物語は美しい文章で語彙も豊かである。しかし、1年生には少々難しく丁寧に読まない状況が理解しにくい表現も多い。動作化などの活動を取り入れ、登場人物の様子や気持ちを想像力豊かに読み進め、理解を深めていきたい。

第6時の「おはなしはっぴょうかいをしよう」につながるように、第5時までの学習の中で、読み取りや登場人物の気持ちに寄り添い、じっくり考えさせながら自分の経験と照らし合わせたり、自分の思いを明確にしたりできるように授業を進めていきたいと思う。

4 児童の実態

男子12名 女子10名 計22名(交流学級児童1名含む)の学級である。小学校に入学し、6つの保育所・保育園から来た児童と一緒に学校生活を送っている。

元気いっぱいの子どもたちで、体を動かすことが好きな児童が多い。困っている友だちがいると、進んで声をかけ手助けできる児童もいるが、友だちが嫌な気持ちになることを言ったり、したりしてしまう児童や友だちの言葉を素直に聞き入れられない児童もおり、トラブルになることもしばしばある。

朝の会で「友だちの話」として日直が、週末や前日の出来事について話をしている。「2文を話す」ことに取り組ませている。詳しく3文4文と話をする子も見られるようになってきた。また、書く学習として「あのねちょう」に休み時間にしたことや週末にしたことなどを書く学

習にも取り組み始めた。「したこと」にさらに詳しくもう1文書くことを意識させて書いている。

話を聞くときには、相手の目を見て、背中を伸ばして最後まで聞くことを指導しているが、すぐに手いたずらを始めたり、話の途中で質問をしたり、落ち着いて最後まで話を聞けない児童も多く、今後の課題である。

音読は上手にすらすら読める児童，1字ずつゆっくり追いながら読む児童と差がある。楽しみながら読むことができる児童もいるが，意欲が低くなかなか活動に取りかかれない児童も数人いる。読み聞かせを行うと，興味を持って聞く児童が多い。また，図書の時間をとても楽しみにしていて，いろいろな種類の本に興味を示している。

1学期に学習した「おおきなかぶ」では，お話に合わせて動作化するという活動を行い，お話の様子を想像しながら学習を進めた。本単元で初めて，叙述に即して登場人物の気持ちを考え，吹き出しに書くという活動を取り入れる。挿絵から登場人物のいる場所や表情，天気の変化などに気づいたり，「ぴったりよりそっていました」「ふいとよこをむきました」などの行動を表す文に注目したりしながら，場面の様子の変化や登場人物の気持ちを，挿絵や言葉を手がかりに想像できることを学び，吹き出しに考えを書けるようにしたい。

## 5 単元の指導計画と評価計画

観点	関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解
評価規準	① 物語に興味を持って取り組もうとしている。	① 登場人物やお話の大体を理解している。 ② 登場人物の気持ちを想像して読んでいる。 ③ 好きなところを指摘したり，音読したりしている。 ④ お話の内容と関連する体験を思い出している。	① 提示された漢字を書いている。

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準	単元を貫く言語活動
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題名「ゆうだち」から，夕立について経験を出し合う。</li> <li>・新出漢字の意味や読み方を知る。</li> <li>・全文を音読し，言葉や登場人物を確かめ，お話の大体をとらえる。</li> <li>・単元の見通しを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕立についての経験や知っていることを話させる。</li> <li>・初めて学習する漢字（木，口，目）のものの形を示しながら漢字について触れる。</li> <li>・物語に出てくる言葉を別の言葉に置き換えたり，みんなで確認したりして，お話のイメージを持てるようにする。</li> </ul>	関① 読①	

第2次	2	・第一場面を読み，登場人物や場所など，物語の発端を理解する。	・夕立の様子やうさぎのことためきのこの関係を叙述に即して考えさせる。	読①	おはなしはつびようかいをしよう
	3	・第二場面を読み，木の下にいる二匹の気持ちを考える。	・挿絵なども参考にして，二匹の気持ちを考えさせる。	読②	
	4	・第三場面を読み，雷が鳴ってぴったり寄り添う二匹の様子を読み取り，その時の気持ちを考える。	・「ぴったりよりそう」ことになったのはなぜかを考えさせる。	読②	
	5 本時	・第四場面を読み，手をつないで走り出した二匹の気持ちを考える。	・どんな気持ちで走り出したのかを考えさせる。	読②	
第3次	6	・お話の心に残ったところを発表したり，読んで思ったことを自分の経験と結びつけて話したりする。	・自分と同じ考えや違う感想に触れる交流のおもしろさ，楽しさを味わわせる。	読③ ④	
	7	・漢字の書き方を知り，「木，口，目」の筆順を理解して文を書く。	・筆順や姿勢などに注意して書くようにさせる。	言①	

## 6 本時の展開

- (1) 日時 平成26年8月29日(金) 2:00~2:45  
(2) 場所 塩山南小学校 1年1組教室  
(3) 目標 手をつないで走り出した二匹の気持ちを考える。

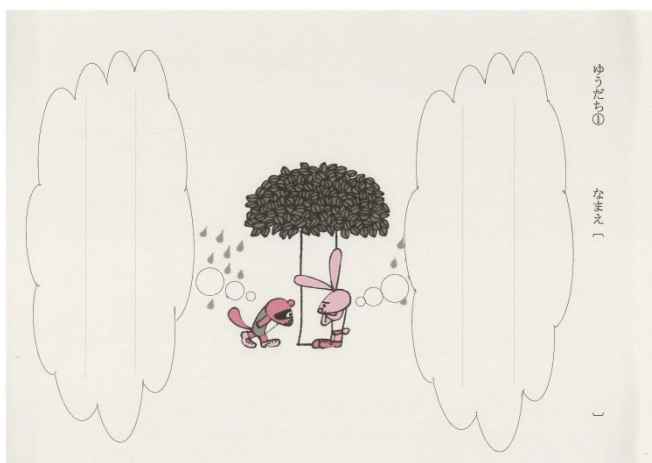
### (4) 展開

過程	学習活動と内容	指導及び留意点	評価規準
つかむ	1 前時の学習を振り返り，本時のめあてを確認する。		
	てをつないではしりだした にひきのきもちを かんがえよう。		

<p>追求する</p>	<p>2 本時の学習場面を音読する。</p> <p>3 「またしばらく」のときに、二匹はどうしていたのかを想像する。</p>	<p>・みんなでそろって読めるように句読点を意識させる。</p>	
<p>深める</p>	<p>4 二匹の気持ちが分かるように「やんだ」「やんだ」と言う。</p> <p>5 四の場面をもう一度音読する。</p> <p>6 手をつないで走り出した二匹の気持ちを想像し、吹き出しに書く。</p> <p>7 吹き出しに書いたことを発表する。</p>	<p>・うさぎやたぬきのこになったつもりで動きながら、言わせる。</p> <p>・「やんだ」「やんだ」を二匹の気持ちが分かるように読ませる。</p> <p>・自分がうさぎのこやたぬきのこだったらどんなことを話したかを想像して書くように声をかける。</p> <p>・発表しようとしていることをまず褒める。</p> <p>・友だちの考えもしっかりと聞くようにさせる。</p>	<p>【読】手をつないで走り出した二匹の気持ちを想像することができたか。</p>
<p>まとめる</p>	<p>8 本時の振り返りをし、次時の学習を確認する。</p>		

## 《資料》

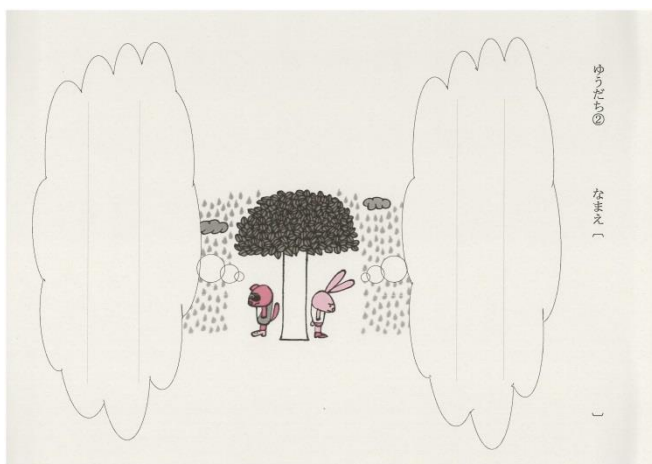
ワークシート①



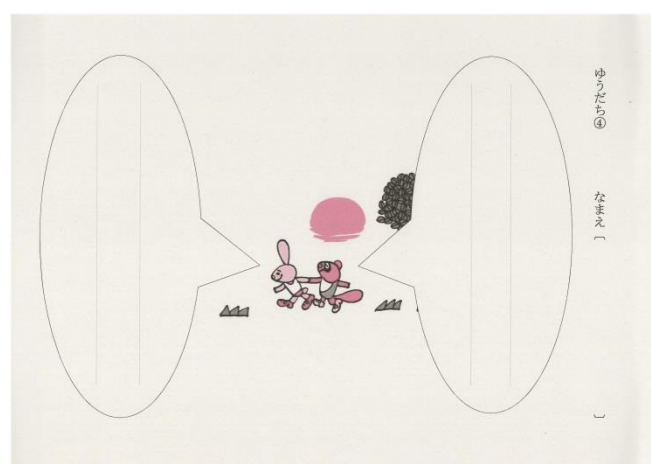
ワークシート②



ワークシート③



ワークシート④



## 7 授業後の研究討議より（成果と課題）

### (1) 成果

- 子どもたちが2匹の気持ちを想像し、ワークシートに自分の意見を進んで書いていた。
- 登場人物のお面を使うことで児童が楽しく役割演技をしていた。
- 児童の発表を短冊に書くことで、目に見える形で残しておく。また、前時の振り返りの時にも役に立ち、登場人物の気持ちの変化を感じることができる。
- 音読は、抑揚をつけ大きな声でできていた。

### (2) 課題

- 登場人物の気持ちを叙述に即して考えさせるような指示や発問があったか。挿絵を利用して叙述に即して考えさせることもできるのではないか。
- ワークシートに個々の意見を書いた後、全体で発表するだけでなく、まず隣同士で発表し合いそれから全体に発表したり、ペアで動作化したりするのも良いのではないか。
- 子どもたちのよいつぶやきを全体に広げ、皆で共有できると良かった。また、子どもか

らでた意見も「(登場人物は)どんな気持ちがしたのかな？」など聞いている他の子どもたちに返していき、みんなで学習をもっと深めていけると良かった。

- 予想できる児童の意見は事前に短冊に書いて(準備して)おくと、書く時間が短縮でき、間延びしてしまう時間が減らせる。
- 音読をするときには、句読点を意識させたり、楽し読み上達していくように読む順番や読み方などに工夫をしたりして日常的に音読に取り組みさせていきたい。

### (3) その後の授業

第3次6時間目にお話発表会を行った。1人ずつ前へ出て、全員の前で発表をした。お話の好きなところを発表したり、自分の経験と結びつけて登場人物と自分の似ているなあとと思うところを発表したりした。

うさぎやたぬきの子と自分が似ていると言う児童と全然似ていないという児童といろいろな声があがった。

児童の発表の内容として、次のようなものがあった。

- ・ ゆうだちをよんでこころにのこったことは、2ひきがよりそったところでした。なかよしになったからです。
- ・ 2ひきは、はやくなかなおりをすればよかったです。
- ・ まえ、おかあさんとけんかをしました。ぼくはすぐにあやまりました。
- ・ わたしは、うさぎのことたぬきのことしょんぼりしているところがおなじだったです。
- ・ ぼくはうさぎのことにしているところがあります。ぼくはけんかをするとはなしをしなくなります。
- ・ ぼくはあめだったら、ざあざあぶりでもけんかをしているからあめのぼしょにいる。けんかをしていることは、はなれている。
- ・ わたしは、たぬきのことちょっとにしています。あやまれなかったことがにしています。
- ・ わたしは、けんかをしたときすぐにあやまります。うさぎさんとたぬきさんには、どこもにいません。

### (4) 児童のその後の様子

「ゆうだち」の学習をしているときには、毎日音読の宿題を出していた。「また音読するの。嫌だ。」と言う児童もいたが、次の単元の学習に入り、数日音読の宿題がない日が続くと、「今日は音読しないの。音読したい。」「ぼく、音読好き。」と今まであまり音読に意欲的ではない児童からもそんな言葉が飛び出し驚いた。

「ゆうだち」のあとにまだ物語文の学習はしていないが、以前よりも読むことの楽しさを感じていた児童も増えていると感じた。次の学習ではさらに意欲的に学級全体で学習を深め共有できるようにしていきたい。



《児童の書いたワークシート》

《授業の様子と板書》

